

情勢報告（令和8年8月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

土佐天空の郷 生産に向けて！ ～ブランド協ほ場巡回～



水稻の生育調査を行う
普及指導員

7月21日、22日に、本山町特産品ブランド化推進協議会は、ブランド米「天空の郷」の生産ほ場巡回を行い、生産者26名が本山町農業公社職員とともに参加しました。

普及所は、各ほ場で水稻の草丈、茎数、葉色、幼穂長の調査を行い、穂肥の施肥時期や施用量を指導するとともに、病虫害対策や高温対策についても併せて指導を行いました。

生産者からは、「日頃の水管理を大事にし、収量確保に繋げたい」「追肥の時期を守り、適切な量を施用していきたい」といった声が聞かれました。

普及所は、今後も関係機関と協力しながら、水稻の生産技術の向上と安定生産を支援していきます。

暑さに負けないシシトウ作り！ ～シシトウ部会現地検討会～



現地での情報交換の様子

7月23日、れいほく園芸部シシトウ部会が現地検討会を開催し、生産者・JA・普及所から計10名が出席しました。

会場となった部会員のほ場の状況を確認した後、普及所から高温対策、病虫害防除、熱中症対策について説明しました。参加者から「高温のため害虫を見なくなったと思っていたが、影になる部分まで確認するようにしたい」「早朝に作業をして熱中症リスクを減らしている」等の意見が出され、管理作業の改善に繋がる情報共有の機会となりました。また、非辛みシシトウに関する取組についても紹介し、周知に努めました。

今後も普及所は生産者や関係機関と連携し、さらなる収量・品質の向上に取り組めます。

地域の水田農業の維持に向けて ～大豊町水稻勉強会～



葉色診断を指導する
普及指導員

7月26日、29日に大豊町の2地区で水稻勉強会を開催し、地域の農業者24名が参加しました。これは、地域計画策定に係る集落座談会の中で「今米づくりをしている人がいなくなる前に、地域の皆が基本的な知識を身に付けたい」といった声があり始まった取組で、今年で2年目となりました。

普及所は講師として、幼穂形成期以降の水管理や病虫害防除等を説明した後、現地ほ場で幼穂の確認や葉色診断を行いました。参加者からは「今まで人から言われるままにやっていた作業の目的が理解できた」や「毎年開催してほしい」といった声がありました。

普及所は大豊町の水田農業の維持のため、引き続き関係機関と連携し支援をしていきます。

新系統・高育交 1 号をもっと知る！
～甘長とうがらし新系統試験の視察～



試験中の新系統について
説明を受ける部会長

7 月 30 日にれいほく園芸部土佐甘とう部会が、農業技術センターで甘長とうがらし(以下甘とう)新系統「高育交 1 号」の栽培試験の状況を視察しました。

今回の視察は、甘とうの課題である尻腐れ果対策として、今年度管内 2 か所で現地実証を行っているこの系統について、栽培技術の情報を得るために実施したもので、普及所は視察計画の作成、日程調整等を担いました。

生産者・J A・普及所、計 4 名が参加し、「相性の良い台木は？」「高育交 1 号は曲がりが多く A 品率が低い」など農業技術センター試験担当職員と活発な意見交換が行われました。

普及所では甘とうの安定生産・栽培技術向上を目指し、今後も関係機関と協力して指導を行います。

「ししまろ」を知ってもらおう！！
～青果物取引検討会～



検討会での説明の様子

7 月 31 日、令和 8 年度青果物取引検討会が、J A 高知県れいほく支所で行われ、関係市場の担当者の方々 4 名、生産者 20 名、J A・普及等関係者 16 名が参加しました。

会議で、普及所から産地の取り組みを説明し、その中でシシトウ部会が取り組む「ししまろ」の生産拡大についても紹介しました。会議後の懇親会では「ししまろ」と従来品種の食べ比べを企画し、参加者に味の違いを確認してもらいました。市場担当者からは「販売してみたい」などの声が聞かれ、PRにつなげることができました。

普及所は今後も関係機関と連携し、シシトウの新たな販売戦略の推進など、園芸産地の維持・発展に向けた取り組みを継続していきます。